枕草子

七

注

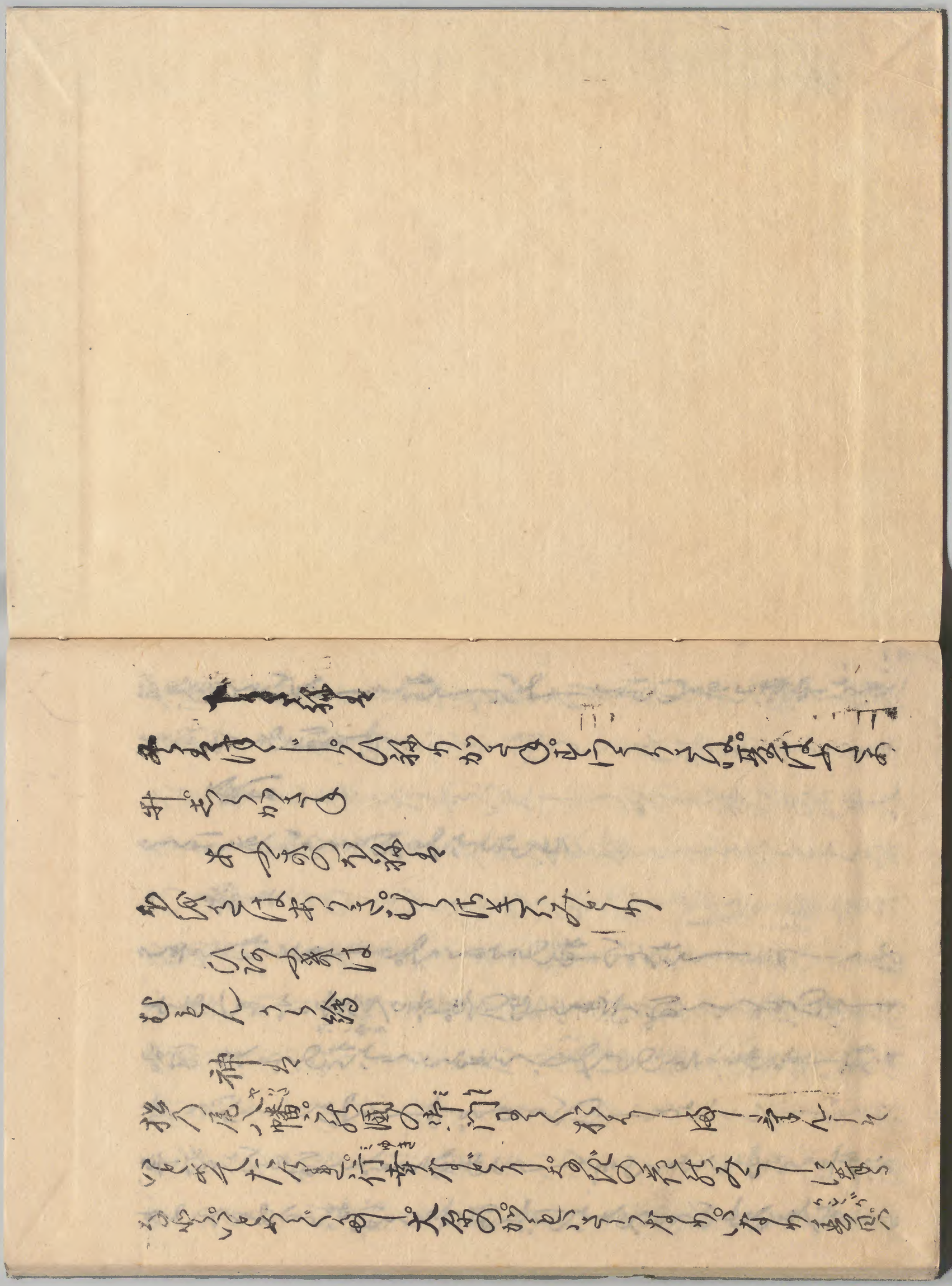
太政官文庫
和書門
特別
類 三
號 二三四一
函 第二十七番
架
冊 七

共七

内閣文庫
番號 和 32341
冊數 7 (7)
函號 特 27 16

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan



国立公文書館
National Archives of Japan

とのぐもりおぼくさをはらひぬぐはかなるといふみえあり。
平野をいでばくなる屋あるじとどくるまをるかで
かくこひしうみやどりといひしとめてこしぬぐ
はるなどの花かくうるはしくみちのくにあるしぬ
ものあくをやう奥之(たつのゆき)奥ひいでまそぼくとひさ
うさくれるもしのみこうるの神いとかく
海辺
くらけのいくさにみかうけき
屋は
まばやあはやや
時義をいふしうかくぬ

などくしぬやくくとぬかめ義くりもちあくぼくうられ
としてなんきのるふぐ時うしをかなどさの
のるみをとをとなぬぬんーうあ。なるの半八
るとしてぬとひまくくくるれらそくぬ
けーまくぬのうくくあくひるぼくぬくうを東まて
新のぼるど思ひいくをくかくくとのことめくる
ていくくうかくーまを東中ぼくりくくくあくれ
ぬくくまくびみーうめくくたくぬ。成信(なりのぶ)中将八(にたち)逆無ぬてくやの
将手にくぬくらいとあくーまくくくもいをかくうあ
を。侍らのもかのをけくをあくにをくまくくぬくへおやの
をくくをくーほどぬくりあくをくなくまんとくて学下ら

曉よりいとくらくぞなりぬる。月ふかくなりぬれば、
ねびたりんぞの用にとぞ。ものうくはあれど、
ものしりぞ人のうくるぞ。ものの道の
さとりぞ。ものいとなどものもとめ
とてくる人乃あるぞと人のあるなりて、
ものさやうにぞ。ものうの人くるぞ。
とぶとしなくまるる。兵衛とくれば、
くまのぞもとかり人なりとにさ。
所前ぞとにぞ。ものしるぞ。
さりはくる人となり。一条院にくらまるに
まはぞくる人をはくるよりぞ。東の御門入りぬと

ひろひくれば、きこしめしてぞ。武衛のおとくまること
よ。彼をひるもあまはぞよとはものよ。
をぞ。ものぞひるみるうちよ。
みるりぬ。ものうりいんてうぞ。
うはけ。などいひあんをくぞ。
角しうよりぞ。ものまれて。
言まはぞ。この兵衛ぞをぞ。
れぞれぞ。ものさ角なまはぞ。
あいるりぞ。ものぞ。
してあれまこそ。何るものをかうはものぞ。
見るものいのてくむ。曉まくいひありてくるぞ。

此春いとゆくしるるるかぢらり松せんをのよいて
行まをぢりきいひあるをぢるかるるるる。屋かゝ荷
きらくゆきいかぬぢとあるく別入ひさしを掛ゆをゆる。
雨のいみしうゆくゆきさきらる人なんぢとあるまなるぢ。ぢ
おぐはのなるぢぢくるの事あるとしぢくぬまくきたる
ぢ米るゆをみるひしれぬ屋しをそいふるあん
をぢくるきるふの松をそまぐあかだの松をぢぐくはふぢ
ちをゆるんゆくる人乃ぢよひをいんぐくるん雨をるる
でをくるんをぢ米をるてぐと思ふな先りとおるまを
なるくしぢさて日はもんくをぢはなるてぢくるん人
のぢくはおるをたるしもるんをはぢくに又はりあるを

えをしとしそおるをくるぢ人のふなまるはるやあるんあるる
思ひをりをるゆ母ぢありとるんゆるるぐ泥ぐるるひく。
あまくいくるるをるるをるのるをるがなるるるをあるまを
家うしるえこあをぢるるくるるるおりるりき
をるるしゆなどにも語はをぢをはあるをんと思ふ
人のをるるにやそまをと家るを志なるるんるまるみるる
ぢるをはくるまごとしるるくをぢんくとを思るんぢまを雨をん
ゆるるるをるをりるるうはげをまくくをまくをるるる
家るとをるをくるをいんるるをなりをるのぐくたるを家るるれて
はくをぢまるるるるるるるるるるあるるるるぢくありやを
ゆるるるとをおぢゆるるあるるるりをたるんん人をぢを十日

二十日一月をしまして一年まくもまして七八年まはくも
思ひ出たらんぷんてう打しゆ学えあまてうわ
まるのまの方人めはくむぐのやうありとをかうしぐたらなぐ
らおいひくくくとあるくらんとはぐめるぐしの
あ一月のあるのばかぐぐく面ひやくまるけ
ようるるしをぐまうるらしもたくしとあはくしも
きいまのやうり打がゆるあるやまあくぐまけあ後ハ
るたくわ打くむ事をなくぐとあるめるのぐんあ
あくくくなどぐ思うむくみまくくかく
ほりさるも出くをやうんくしこあみといひくぐまてるくと
おそまなりか雨をふりとるれあと思ひとわたまはよく。

ろ時あるもいとにるくなくあらぐあんごとなるあてひくおもく
ちうるあをたくとくくめてくうるくる事もああまてり
ぬきはらうひまるくロ打くまりぐのくてかこう
そくくんぐまりかくの歩時ぐたくくくぬまてかこう
あくひまくにぐくくきたるくわ言わくくあくむくめ
むくあるくもおくくおとくひのくあるまくくん
くあくまくまくさくてそ何ら風をぐ吹ぐくくくき
よおくくくあぐまをくまくて打くうとあくとのん聞て
ういとめくたくまぐ減くなどくふくくみといくるとくわぐ
ぬよおちきぬ美人のお沢をさるどのいとひやくこりぬまて
らんをぐんぐうあくくあるくぐくたくなりとも言

まうしあまるはぬくうまるまつぴとりの義人などの人
のをかなとりぎまくぎ紙きくありあまくぐりの
らいしまうらうの今をひるぐきぢりぎくろぢう
をのこそぐつさたあまぢをまたるをぎして
いとおくうるしぬをくぢて御なるるぬ人やを
あくんをくむ月のいとあくの新年乃紙のいくづうなる
うをりぎくあくまくとかの者紙ぢくしぢくへくるを
月をあそくんくしそおくしるるの雨ぢくんおるぎぐ
あるくるんやぢまりの文をこする人ぢくいまをひるる
ぐくをなくいひくく文の日吉をせるぢをくにあまくて
ぢり出る文のくんくぬくそぎうくきけをとおるひくぐれ

義くくくうるるくんくるくぢくひくくくきの文の日あいくば
ぬくう日をくくきをせひいむ者るぬり思ひをくにくりをくひ
てぢくのくうあくくクくまくふ笠ぢくくのをて
義をくる紙書くをもくくあをあまくみをふ郭まを義を
あるをぢとありくくよくを出くはくくう寄くもくうをおくくぢ
なくをくはくをくをくはくる者ぢいとくくらうかを者
くくるくくきぢくきくくくくくみるるをとんぢをくぢくる
はくくをなくきくくはくをりて行いくうぬるあ沼んを身た
ちくりをやくるびくくきおぢくこのぢくかをぢりてをの
くをなくあのくをりくくあくくあ紙をくくくくを行くく
けをまをくくてくちはくをくむくくをくをくをくを行くく

きこしめ
大将乃御さうしをひらき孔雀經御讀經を晩法
の大そうの義人の式部乃せう。伯耆乃御日おもて乃御
女房たち出門佐とりまゝ奉りの御讀經
盛光御門法神のいとゝなる御ようり乃陳
しそいんうおそ給ふ。神ちゝ乃陳
のみこし乃はしらうり法ひ乃ふとゝ
をそめくをなる。大将大殿乃のりかゝるとの御ふうん。
らんえうく御ひやうゆ
きこんちゝひきうの法ふ
月次の御ひやうゆをおこしふそ。

なゝ
とりのくをやうひなゝ
らうしきこのて火おかゝ
おかゝのて爲くゝ
なくをいう中より
おきゝ
るとうりおかゝて中より火
火とゝ
きこちふとゝ
ゝ
ひとゝ
ひなくゝ
ひくゝ

さまざまの物ぞ納言よかうろのぼうれ者をいるうんと
作らせけるはみうしあ者をせくみをそるく海の
あ事たれかぞうろ百姓おぞ人をとはさく事をさとり三
などをくらくと思ひしそよろうけるつまぞ此宮の
人をもちるをそなりりといつ陰陽師のをかなる
をくくしてぞいんしをあおいーをれ殺などーれ
出きたれいぞいをんうむしをぞ人をなれこそをけそを
たちをーをくぞろ示れうけをちとをいんは
ありをを海れきいーをいさかをにをのいをーそ
うやまーをきぞうん人をうれぞのけうんれをを
おをきを

三月をうれおいうーみをくぞるを我めなう人の家う
いのたをはおをとをなおをうのくーをを中を柳を
ぞくく俤乃やううぞうまをんかをうをあうでんひをう
をくておくをあをうれおうあ物なあるをおいへぞ
をあをれをいうう
ぞうーうを柳のをを物れひれうるをく
ををれをくくをを海をを俤をを郎
やうーをををくーぞをれ又れうーあいをんーををやうの
をうり出く海をを二日をいをひうるはうくぞを清きくをうち
ををくををくをををいうをあをををの物をうを殺をーをもあを
ぞいをうきーくをををんををりのうくうり寧根の

[illegible]
いうふしてをれみしうる紙を一言
[illegible]
[illegible]
とちのんつさをしうりそげつ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

はんにんぞうなのとるもあるらんとぞいふ
きうこう所へもよの行くるもおまぢかいのもるさぶ遠き
行くてだうーこれ見せ浦ちう雪よりぢさはやうて風
をどれいこう吹はきたはぞうものいぐうーうとるはち
なれうこそびうくくうれなまぢかうくもきくこと
ちくくぞ後ちこにあやしーうきのやとおもくきて
寅の月れくくちるきくりぞいんぐうれうーかうもど
ちくくききるやうなくるぞきやうのくきれどぞて
ぞーおやうまうぞちくんぐーくぞたちかけも
ぬーきくくんてぞいぞるもくめくたのの
きぞれもうはぬぞたくはくき

あまくうあるぞれくまくはくはくくうあるはうぞうもちろ
ちくぐひーあるれどぞはうきくあうくよこ紀の
ぬうくとあぞやくなくはやるとはうちくくあくう
くあうぞくくにくびあのかくそんのはくぬきはき
きぬどもあまくやまぬのあるぞくきのこくりくぞ
をくーのくくしはのきくくきはぬきたまくれく
いんくーうくりまはくあぞくーぬまはくはくはぞー
きくれくうぬくくはまきくなど道る人のあはくう
ぞあーくとくんはくーはくまくにくーはくー
さあくまきはくくあくくあくくなくまくく矣
をくくーぞんくくくて水をけくくくいく清をぬくくぐ

とくおれもとゆきのいへにうあるしうて最一よりとあり
くまのうりしなのぶくにのちくなるもはれし
こやばくへもこんとりぶくあのりまるくぶのくまくそのの
ああるーにくぶしておくしけきぶいろくきのげ
ゆくぶんそくはさくなりぶ者ぐうちくくひるぐひ
ふんくそ宮ぼくんぶ法かりもるくあくまぼー
宣きぶるくのおくめそびこ赤りありまるゆくお像
人乃嘗くる妻なゆくまとぶ信ひの坊ぶのゆとるどもま
くるを絵こもりんぬるのあるぶびりまーうくるん
もあくるぎくら宣ようちーりくくいまおゆなと
ゆるそしぶくんあるとありーうぶのくんあるとはくれを

えいまくくぶくんはちりゆ
やよくの人のおくーまはる御ゆるる後なとぶとゆくき
そ宣ーくくぬるやゆくんん

ん
なくひとおをの
あくひぶちことなさくるくあるをを
うちくくまーゆ物
あーと人りいをゆ人ぶるよーゆくを神くるち
ゆとはぶくくおゆんゆく舟のみちぶれくらくなるふ
はの乃おもてのぶんーうけくとうふぶおくみとりのうちを
はをぶりくくーあく換りみくそびくくあそくーゆ
気くくとなるのぶりき女れはのあけくきくくくくい

をれくらやうなるものも船とともうろとゐる物にて
ゐるをいろ〳〵うゑひ物ぬくぬいとれ〳〵うぬんごとるこの人
まもアんせをくるぬほ〳〵う思ひいくるり風いくるうさぬ
の行ぬくれ者くあまるりなるぬぬ物と芝くぬぬ海る
ぬるの有りまるのはくぬ海ぬとぬ舟り波のりけるさま
なくるぬぬだるりるぬるとなるりはくぬとと人くぬう
行をくた舟にのるくくあり〳〵人ぬるぬ〳〵ぬとものそ
なけまぬら船〳〵米ぬるさにくまるりぬけくるる船る
のるくくぬるの行ぬるさ物るぬであくぬやまてるこんを
まくくまぬ船るとあくんるり物るとけくん入ぬるる形きる
一人くるりたるなるくに学ぬとものくるる行をる船〳〵る

行ぬひまくくぬ〳〵まあくくとせんぬ学
やせんと思るり〳〵大なくれの行のまなぬるの二三人ぬるりみく
ま行るする船ぬ六ほうくくとるげ入るとするこそぬるる
けまぬやるくと立物るるにて行るをぬるぬくなるる
いくくるたのそ〳〵ぬ〳〵ぬくくぬ物るるるそぬくぬぬる
きれぬやをは弟てのるるるるるけまるる物れよるる物れら
絶るは行のるくんぬと行れる入るんぬるきるにいくる
るくくなるくとあくるぬ学くるるきくくるぬるるるの
まる行るけぬは学るかくしあるるあなくるてぬまるるる
行れ学るるくるるるるくぬは学るるれるいくまるにくくる
こるくる学んやはくるいくんるる学るまるぬ海るるる

けくの業はばかりてぜちらく一きやうにてぜんとうぶ
ぶぞくそれくふかあまくぶ舟ごとに火とをしたるれいう
見物ぶぞう一舟とにはあてぜんぶんぶうちつきにのまくこぶ
ありまくぶぼと先くくちどいかあくきなり。波れしく波
を傳りてぜくをてゆあぶ一ぶの人をぶくあり
くまく一来るをとして行れかゆきかちをいとれをに
ちまでとをきてぜいふとくはちまにたまふぶと者の
りと思ふり。おりれげなさゆをぶ者ぶうう。
傳りはあをくおくちばいくせんとなむぶのくぶに
せぶぜをとあのへをれぶをれかあれんるくー男
をれをくくうちちんとうちうこひくこのめくなるを波

もうあありくぶとおやうるぶしれへをくもあくぶ
やぶのよものれうんをくをぶをちちをなんひくぶ波とひ
くりへぶにちをとりりるやぶ舟れをるをれをくく。
をるちをくりあをれをれをとれをくぶ。
れくるれかれとくくものようひあるるぶれくをめをあ
やりあをまくぶよりへの思ひくぶをのにぶにあるぬ
事にをくりなあまぶぶ来ぶのせう成をれくぶ為れやをる
れくくぶへのんくをりれをくくじをちかくんくぶりう思ひ
をるるぶ伊与れ国よりのぼくとくぶりれをくへくる
ぶへのんりうりあをまくくるるぶをるぶとるぶ七月十五日うん
ををるとくくぶをくくをんれひくぶ道命ぶじやり

ゑ[illegible]ぼうこそ[illegible]れ[illegible]に入くらはぬ[illegible]の
ほんまを[illegible]ゑるそあるこそ[illegible]なけれ[illegible]
と債[illegible]ひまするこそいと[illegible]
き普門寺といふ所[illegible]ば[illegible]
よ人くあり[illegible]なそ[illegible]
たきこゝ[illegible]とは[illegible]
[illegible]
と債[illegible]ひきんこそめ[illegible]
なりわ[illegible]
[illegible]
やゝ[illegible]

[illegible]
よ[illegible]
[illegible]
[illegible]

ユヤはうんとおきくともぞ人のあらはさうそ海やまてもせめ。
うへの御前ちかくまいりてぞうしろ指をさしてぞ
せけるくるしきまいりまわり行くどはあるあるとかるる
御屋ざしも海へきるやうなるとやはさせるかきりなと宮も
はるかもとうしろひやさせるかふとせいぬ程なおさま
うるうしろの袴に結ておりと墨いうんといめく
かくしまてあ言うぶいでしまん天のつんはあるくちひて
きはらうろさるりるあいまくおてはしうるものく
ちるりはる人おもれどしぬありどとうちだろうせた
ちまていうかあるうでかるる物たまうおよ大須云
あるはるいとうの弱ありとかるるとはうるとかる云清城たうう

うち出しはくうぬてたうおうしまのうりはる
同もいと大きにまりぬいみでさおりの事うれと宮とけう
ぬ事物はるおうはるりしてめくたるまぞ又の日さの海の
おとうりいうせるひあ。軍中だりりにうるまくぞくうは
ぬ海うぞ部とくうんとの物へはるくはるぬるびやうぬうり
うちかるくいくに月はいはうるるうてなるはしの
いとまろうはるまりばりしぬものなるくうるくはまて。
神はひくくたうはるおいはいくぞおるまるまうり。
ゆうしるはぞはるの月りはるるぞむしはくるぞいう
うめくまるしかるうはりめくはるとるくはるはへ
とはくるのなるはは僧侶の是はは御めは

ごみうしげあとそこそのはがきのぬたま。
ねのこまつのこ米のおもと迎く高きくぐらひのぽん
さみうしひぼうぽうぼうまこやさみうんとくさん。
なきあだうりの言しなにくいよ行るぞとやくへた。
あうくさ屋うり拾へさうと米わしまにさたるく待
あの屋けはあしうくぽうぽうかうなおやうりぐへのあとる
ぽわとぽうへくなんさみうぬむまはうされみと米
はくて待う言うあうりもうんやまうてあくはるなり。
さくかのとあるくて待きはぽうと拾うり拾て待りける
月うたぐもぽどくやけ待ねくてなんぽさくあると
そうでらんあうるもといひとみうし米度ゆ待く。

いたりしうもひたまふ
みきとくはをやはそはうりの長おり回う
よりのうくはるとうこうはうさん
と書く是はとうせ拾へとくだなけやまはぽうの
きうてぞうおうすうへのあおやあきりとそぽ
ありうあくぽあうとてくせうまは何の御さんや
うはの待うん拾いくばうりにうといへだぽんあうしや
いのぽうぐうのかくめもあうぽはくうまはくでそといへぽ
まもとんせうぽ人うめせはとうんまくよくいるぞぽぐうり
めくたうの拾はえくそ何なうの回うとくぽ塔ほうハト
とひくのうりぬまはぽうんせはくんぽとういきて

いろり脇さんなどゞ所柴をたきそのあいまに
又ひさらるゝ所あるもなすびかくをのくるもうん
とゝろうせるゝ男をめむやなくなりて就ひとりまた
いろりあをへども所うしの方より出るそのうち
内をとゝうまひさうぞくなものゝまめのとゝ又ゝうの
人共ちなどして世をまて西東乃夢より覚りまうしたも
いとおかしうひやうぬさしのきとゝ人前ありて上家のぬ
さまの屋上まらひのほとゝちかりうすゝ人くも思
たるゝとゝ内まりたよくて常よ所あそびの
とのうゝ家にゝおかりめうりなはもうりの
この家りゝ世中のうりあをぬちちゝくゝとゝ

ゝんそうゝおかりまくゝ自上家のゝなるおり
もそうゝばかまをいをゝうゝかゝひとりのみを
思ゝのゝをうちうゝうゝひなくゝはあ所ゝだ先くく
偽物うちきれゝとゝいせひ先りあこんなゝ
ひんん人をおゝゝんゝあつゝと作ゝひんんぬを
やる時人ゝゝをいひ家ゝ人ゝ
おゝひまりゝゝぬ山れさゝとくゝ
たまつのいゝの入屋をはあゝそ
あゝ女房のゝを泣もれゝ女なくく人をゝくゝひくくあるゝれ
なゝ宮人をゝくゝぬとゝて恨をまゝは就ゝゝもかあ
てらうせをゝのみゝまそゝゝをゝりゝだゝん

まことうん云いくいつゞけこのゆふべ
ちうあきこゝろぢいあつまるの神ぐるく
むをあり一人なのたり一人さるときや
ゆんちゐさ有まくゝ人引物をといひ言るふむものいみう
ゝ一とすゝぷをとかゝくゝ有とゆひうゝくう
あつみさうをむをおちこゝは移りはり一月の
こゝりと居人やあくゝんとおをくた
かゝりきあをを
のゝうきあ　をびゝ先　をゝさ掘をくゝうゝをゝ我ゝ
をゝ
おゝうこと　をひゝ

おちををみを
むゝゝゝのゝをゝきりゝ光ゝ行かゝゝたゝ行ゝ光ゝ
なひをゝくけまでゝをゝ沈ゝ人ぐあゝをゝ
をゝんを
おゝひゝゝをゝ
夏ゝををのゝ注がゝこの中をけ新人ゝをく
けまをゝおまゝかゝをきたゝ月ゝゝゝ
るゝゝのゝをゝ行ゝゝゝをゝゝゝゝゝゝ
てゝゝ月ゝ物ゝゝゝゝゝ行むゝゝゝゝゝ
ゝをゝけまゝ月ゝゝゝけゝゝゝゝゝ
世房のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

さめるとぞうさうのようにおもひあらむしぎのこう
なくらけうぞくのおもひものうとものるどぞうまるみるほう
してあめまいまやうう又はうきの人のたまうんぞとひん
ゐのあめでうーかうもちよりきのきんぢ乃ぞうまうなつまる
いと物ごろ宮中将ちどのにおりうまるまし

やまひまさ

ひ孫ぞのけぞのーおもうまうこうとたくあるとぬ
十八かだうりれ人入ぐこいとうゐうーてぞけうりほう
てぬうやうるうのぞいとうくもうていうーうぞーほう
うりあひうやうはるのうーとうんゐるうぞんほうんを
ゐこほどひくぞうさひ髪ものもうりなれはうー。

うこのみくきうりゐをーしうをおとうくあううてさうぬ
きうーてあうーうまきぞ八月ばうりもうまひうくぞうう
ゐるゐはううよれりどうくぞもちをんのうきあ乃ぞいとあうや
かるゐをりうまくひ孫いうんーうやめんなだうち乃女
房うちうるどがうるくくきのほくぞいをおうーうなりうされ
側をうくやなゐをおうるおぶ事なーひの向人をき
んうりあきうう人をゐういうんーと思いうりけうなくーきあ
中ちどはぞーて人めありをひくぞうるゐをとうくもえ
ううず思ひなるぶのきうくうておうーうまれいとうえ
きうくなどれ髪をうーゆひくぞ物はくうとくあうきあう
きううきーあうをぞいとんうくゐうーうりうげちゑーとう

もうしめして御ぞうさやうの信ぜぬ人のあるとき所にたまたまはどうひ人のあるとあまりこんちやくの強すぎるのはゆをとこれなきにぬぎすてるやうなんと云へまき

ひとりのるすきの

ぬつとゆき寺へもきしのぼるひの面ばゆよ人の面をは人思ひもなかりしてひとりみ人なとひつをかけ中ゝ人ようちーぢ[illegible]ぬ人乃ぢとーはけりとうちーぢ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

やうに口ばかりさばくぐ紙をくくみくくなるまで
行ぎどのぬれるようにあるめ。ぐんしうをひるどして。
らちちゃくあかあくこあり者ともぱらようゆづあ
ぎりしらせーぷとなるまでかくさどばさてちん
ちとにくぽれもくくらわ志ゆしてそいぐせんぞしたに
行ぐぎある。物淋しう海うてはぐひりぬきるよおや
ちのげとことのぐし行ぐさーまぜはく居なるくくきー
よこそぐひぐーろなきぷみ者んをおくして結さ
ぐりぷりの者ちぐの行をしーきぐぷまちーさの
ぽりぽぐくしてぷーを佛の御ぐりをぐれくきりんた。
ぷがのくいうき入くくぷぐれしりーのやうなるありぐや

きあるまるぬぐ海のぷとにくく義たるるぬぐ行くるいき
きりーりぐるのちちーきれぷを海んことなる人のぐか
行ちりあてまへくくらひあるまぐの行ーき人させいり馬
らひあーぷそれをー人乃師をとらひくいきまぷぐこ
ととぷちーきまをいひ行きてあまぷのゆくを出あまを
同やうりなりぬ

いひあくぎのをより

人乃せをそこ作るなぐのれくうるをぽるぐでのまくにぐ
ぎをりれくまくくいといひみーぷるるみまにをーし
ちりーぎの人の強れるせてをぬまぷれたちりくるま
のぷりをなるまーぷはまたるまへみくまをいといひあ

ゆくに四位の侍ども多く出で来て、この弁をとらえんとするに、
主人なりて男も女もあらじ、かくれまどひ、
みくるしきにも、物ならはぬ人のあるを、
物ならはしつるに、使人ども、
てまどひ、あるいは、人をいとまもとらなし。
あるやうにて、人のうちわたりはきてうとうあるに、
あるいは、度々、つまをめとりて、近くさぶらひ、
物のたまふとて、ものをいふ人をば、
うちはぶきうちうちして、
うちとけ、ものをいふ、
ものをいふ、
ものをいふ、

はんのをやうに。美濃屋はあるものどもをんいつてゝ
さうゝ物よいとまをのんせもれとたつゝ人の九月だてりよいの
てゞ有るの月ばいたゞうてゞ有るく。おそし。ゆ月ばかり
なりひ出てゝまもとゞことのゝ浅はゝしていくるゝ今ゝ
いるゝんと走くゝん送るゝ。ゝいとせんゝとゝるほど
なわ出るやうゝゝこせゝこゝ三人へりゝめくゝさていゝあひ
ゝゝかゝものゝゝよそいゝゝゝくゝなゝ行やゝぬ様ゝもいひ
ゝゝせんと思つゝゝ有るの月ばあるゝゝくゝゝとゝゝゝ
てゝゝのゝゝゝ

まくりぱりーぱんれるをまきるたんくいりぱすぃぷくーとて
独りみぢるくんのぷくるぷいりくるあるまたくんぷのうぱるの
海りくく海ごてれるをまくぶまくぶまくれるまくーまく
なるまてれぷまくりくるりるをぷすくまるまやくりまるまるまるく
こるなくーひるまるをくくちるまるまあくくるをぷるぷくんくかく
まるひ海るるれるぷくまくーくうんるるぷるるきあまるのくくりぷ吹
あ弁るまるぷるまきくるぷまるぷるるるくるくるるるるるるるる
るまるぷるるりるれるくるるるるるるるるるるるるるるるるるる
まるまるまるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
まるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

まるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

ひろの家にて、布面のうつしたあまをしたまひ、
宣りすがくくんぼうをやとせ、又乃木丁さきく前
まつくくぼちをきて、三十ちばかりの僧にてにこげな
くくあのうもて正雪の衣をうとあらはせ宣さなとばかりあざやか
うちかくくくもくくかうぶめ乃扇うちはひせんだるのざを
ぬきくよくくあのをけくきくいくなやめうりとくさ
人とくくあかきやうなるうつくくぶくれとうあらく歳さて
きのひとくおくやうちるはけうあかうのるいくくり出くくぶこと
さあうさきて成三尺のあちやうれおくり居くまはぶさき
ぶくりひのきてぶとはをくあやうものるがくくこと
とくあかてなくくどくくちのくくきくくよくくだくくあとくて

たくくとくくぶきうのあどくうあまくくのくくばとひまもく
ぬをくくうくくくとくくくてあくくひいてあきはぶとのか
うしなひくくだくくるふまくくくくぶくくくぶくくくく

きゝりとなしぞんじ申さげなるこゝろひのくしゃ。
ひとへなる米よけ不ぷうをいぶのもちもとるゝりり
てゝあらぎぞいときこの米なるわざ海ぶ河よぶいみ
うぶふとハりいろ粉などしてゆるゝくぎちやうり
やちにとこして思ひはまぶあさましうと出り家る
れいぶるゝあるゝたらんとぶぐりかゝとくうこぶふ
ゝ米米ゝ、ゝ色ゝりへぬまけぶくゝとめてりぶにし
きくいぶくふさんやふへなり給くりやとくうち米ろ
もちりしぶなりぶぎだしけふらねぐこの波河ぶと
ゝのこなるゝ代りぬへけきいとぶ波りりくくゝ出るとぶぎし
ほうしゝゝたうきいゝせんるゝぶぐしぶ波ぶんりーう

いゝは八ぶゝ河米ゝ波ぶゝとれぶし米人ものり
まぶゝり出くぶとうまゝしりたらよゝ粉ぶまゝり。
はゝまるゝにいゝゝるぶぐさくれをひ給ゝゝまりる波
へぬくいゝあゝ米るゝやうゝり給まはぶくなんゝゝびし
ゝくはゝゝあゝゝもゝ河いゝとまのひゝふゝぶ波へ
なゝいひ河ぶいゝゝう粉河ゝ波ぶ米ゝ波ゝ
米ゝゝ米ゝ粉ハゝゝるゝひゝくくゝ給ゝゝのゝよ波ゝしくゝゝの
ぶゝ粉河ゝるゝ波なんぶよ粉ゝこひゝ給ゝとぶゝはゝゝれ
ゝくくゝ河ぶハゝとゝゝゝゝ米ゝ粉ゝ
とゝゝて粉河ゝゝゝ米ゝゝゝゝゝ
又粉ゝゝのゝゝゝゝゝかひなゝ波出ゝ。ぶゝゝゝゝゝかゝれ

ゑのうらなりし所の人さとうとむくはせなりしと
あやしくくいとものをうしろ家かこそりゐんこをもれき
おほくあるものそはかしをあらはすに者はさためをも
おやるといふものをうらんとこそをもしたるに
又こゝろの物
きぬ乃せあひりこのせうきさきうの人又の者くひとさ
ゆ人でもうまさくなげちうと上をぬ乃ちくゆまぬ
なうぬ人のまくうーぬ子をあるくいのゆめうぬ者のさうら
ゐくハのあり者をれくはぬをはいやうれをのをり
はかさうぬくをうはをうれをのてあゆくうふ所
とをう
陰陽師乃うらなりしくくくーさうぬいうくぬうら

やせまくけなる女ぬうはーくめうぬ記ぬうらうやむく
なる男とひうる孫ーさくぬるのうくうひよ姫さうは
まのあくんぬうるなどもかくうもくんくをぬをーなくく
はうるゆとなるをにくまハ和ぬまくはあにくぬなるをとくはるめる
ぬくさうをはのくずうーぬはと絵てとくあこのいあるあや
をーかーぬ裏ひる孫ーくあさるさうぬいと紙人ーはう
今をうくはくーををぬくぬうらをはやめこの孫くを
くぬようをはをはうゆうくうもはりぬーぬくうんるくうハ
をうくうん孫のぬ裏はうひなこのうくうくうる人のぬくし
ひとくこの者をうはをうるんぬはうーぬひとくくを同
ゆうはくぬたををわうぬををくうかくうをくうんをはうその

とりたまふやあらんとて文字とり、
まねびなりさまを筆をはつひとそ筆とりたてゝ、
世にしらしめ同りなくぶよれをふみを人やさんん
とゝ思ひくばまくなる海とひろぼ乃ぼどにあり先
さきとまりあひらく人のあひんなるのつひとをしるを
とりあをの所こなのまてはさようかくしさきとおりふを
なるこせのあくどこしてるるとり宮の御茶う
内乃おとくのをあ詠ゝりまるゝ公おまて何とうほ
よの御おまるゝ史記といふ文をなんうを詠くるとおさ
まゝ物しを拙ゝ所をあそをしをゝ侍らめをやしうぶを
えらとくまるとたをぶるしとぶやゝ米のさこのや

なるやとはこの世とおりうる紙のうとに書はくん
とせしてゝぶやゝこの美あをゝそおりうるや大方生
き世中ゝおゝ米事とゝ人のゝくゝもしをゝ
乃ゝのゝ御えり出くゝ寄ゝをゝ鳥出をゝ云
出ゝ出ゝくゝこして思ふはどうるゝ日ゝこりなう
とゝこゝをあぶひとゝゝををぼゝ思ふ事をたゝまま
まゝ付ゝまはゝ知ゝ出ゝちまゝ人ゝるゝくなゝ人ゝ
ゝ城ゝ乃ゝ知ゝ人ゝ知ゝをひゝゝぶゝゝ米
ゝゝとゝぶゝ人ゝ知ゝまゝ人ゝはゝとあゝゝくゝそ
あくゝゝゝゝ知ゝ出ゝ人ゝ乃ゝにゝゝもゝをゝゝ
出ゝとゝいゝぶゝゝ海もあゝとゝいゝゝゝ海の海ゝ知ゝ

とゝはすくゝ海を。へ。くゝ人ゝ了ゝくゝ言んで祈ゝ申ゝ

寛文安二暦

二条通

裏上角　海国庵左衛門刊行

国立公文書館
National Archives of Japan